

## 会 議 録

<p style="text-align: center;">会 議 名 (付属機関等名)</p>		<p>令和3年度 第3回川西市参画と協働のまちづくり推進会議</p>		
<p style="text-align: center;">事 務 局 (担当課)</p>		<p>参画協働課</p>		
<p style="text-align: center;">開 催 日 時</p>		<p>令和4年2月18日(金) 午後7時00分から午後8時30分まで</p>		
<p style="text-align: center;">開 催 場 所</p>		<p>川西市役所 4階 庁議室</p>		
出 席 者	委 員	<p>岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、西原千佳子、横谷弘務、 久保田啓子、細見美咲、石伏淳子、大西僚、京極光泰、名畑龍史、 丸谷満、山中彩永</p>		
	そ の 他	<p>市民活動センター、男女共同参画センター 三井ハルコ センター長</p>		
	事 務 局	<p>金淵総合政策部副部長(広報・参画担当)、 岸本参画協働課長、田中同課主査、和田同課主事</p>		
<p style="text-align: center;">傍聴の可否</p>		可	傍聴者数	1人
<p>傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由</p>				
<p style="text-align: center;">会 議 次 第</p>		<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事</p> <p style="text-align: center;">(1) 第2期 川西市参画と協働のまちづくり推進計画の検証 について 今回は、基本方針1及び基本方針2</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

19:00～

## 1 開会

### ○事務局

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条の規定により、本会議は公開となる。

本日は、新型コロナウイルス感染症の影響により、Zoomを活用したオンライン会議で行う。

本日は、全ての委員がオンラインで参加している。

本日は、川西市市民活動センター、男女共同参画センターのセンター長である三井ハルコ氏がオブザーバーとして、出席いただいている。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

### ○岩崎会長

只今、事務局から報告いただいたとおり、本日の出席委員は、定数の過半数に達しており、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第7条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

それでは、議事に入る前に、事務局から資料について、事務局より説明をいただきたい。

### 事務局

本日の資料は、前回使用した「第2期 川西市参画と協働のまちづくり推進計画の進捗状況〈基本方針1及び基本方針2について〉」を使用する。

## 2 議事(1) 第2期 川西市参画と協働のまちづくり推進計画の検証について

### 今回は、基本方針1及び基本方針2

### ○岩崎会長

それでは、事務局より資料に基づき、説明をいただきたい。

## ○事務局

前回より「第2次川西市参画と協働のまちづくり推進計画」の検証を議論いただいているが、改めて当該計画の位置付けと議論いただきたいポイントについて、説明する。

まず、「第2次川西市参画と協働のまちづくり推進計画」の位置付けについては、「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第13条に、「市長は、市民公益活動を支援するとともに市民等との協働を推進するため、基本企画を策定し、総合的かつ計画的な施策を実施するものとする。」と規定されている。同じく第14条には基本施策として「情報共有」、「担い手の発掘・育成」、「意識啓発」などを行うと規定されている。

この条例を受けて、「第2次川西市参画と協働のまちづくり推進計画」では、基本方針1「潜在的な担い手の発掘を支援し、市民公益活動に参加するきっかけづくりを行います。」、基本方針2「市民公益活動の充実のための支援を行い、地域分権の深化との相乗効果により、将来的な事業の自立を促します。」、基本方針3「市民公益活動や参画と協働に対する意識啓発を進め、多様な話し合いの場の構築に努めます」が設けられ、具体的な取組項目がまとめられている。

次に、議論いただきたいポイントについて、説明する。前回は、成果・評価の図り方や計画のゴールについてなど、少し大きな観点でご意見をいただいたが、この基本方針に沿った取組項目に関して、ご意見をいただければと思う。

委員の皆様が日々の生活や様々な活動を通して経験されたことなどの観点から、基本方針の取組項目に沿って、ご意見をいただきたい。

したがって、本日は、もう一度基本方針1及び2について、ご議論をいただきたいと思う。

### < 前回いただいたご意見について >

前回、「実績が評価指標や成果にどのように結びついているのかがわかりにくい」、「単なる人数や回数だけでなく、エピソードや活動者の声も成果として良いのではないか」といったご意見をいただいた。

これらについては、次期計画の評価指標の設定や実績のまとめ方に反映していけるよう検

討すると共に、成果指標を調査する際に原因や背景（活動に参加しない理由、自治会に加入しない理由、加入率減少の背景など）の把握にも努めたい。

ただ、この部分は、回答者である市民や自治会等の協力があってこそそのため、どこまで把握できるかは定かでないが、前向きにチャレンジしていきたい。

#### 岩崎会長

それでは、ただいま事務局から説明があったとおり、改めて基本方針 1 及び 2 について、取組項目に沿って、ご意見をいただきたい。

「ひと・まちおこしセミナー」と同様の趣旨で、市民活動センターでも講座が開かれているが、本日は、オブザーバーとして三井氏にも参加いただいている。例えば市民活動センターの状況について、「担い手の発掘・育成」の観点からはいかがだろうか。

#### 三井氏

こういった取組みを評価するに際して、数量的な評価で可能なのか、そうではなく質的なもの、変化・変容の状況であらわせないかと考えている。

また、市民活動センターのミッションとして、ありとあらゆるニーズへのサポートが必要な中で、無関心層へのアプローチが一番難しいと感じている。

#### 岩崎会長

無関心層の掘り起こし、その変化を評価軸と表せればという意見であったが、アフターコロナ、ウィズコロナにおいて、無関心層への働きかけというのはどういったものになるだろうか。

#### 三井氏

センターとしては、いち早くオンライン講座の実施やオンライン会議のやり方の講座などに取り組んできた。

また、コロナ禍において、価値観の変化を感じている。本日、フェアトレードの講座を行ったが参加者が大幅に増加した。利己よりも利他が求められているのではないか。

### 岩崎会長

コロナにおける変化は、まちづくりを考え直すチャンスであると思う。

こういったなかで「自治会への加入促進」などにも取り組まれているが、いかがだろうか。

### 京極委員

既に取り組まれているとのことだが、自治会長を4年ほど務めている中で、具体的に参画協働課の方からこんな取り組みがある、こんなことをやっていると聞くことはない。自治会側から問い合わせれば答えてはくれるが、基本的には受け身である。今回はコロナの関係では、市の貸館に関する取扱いについてお知らせが送られてくるだけだ。

他の自治会長と意見交換するなど、自治会長同士のつながりが強く、参画協働課との距離を感じる。

そういった情報交換ができていないので、評価も下がっていているのだと思う。

### 岩崎会長

自治会同士の情報交換は、個人的なつながりがあるのだろうか。

### 京極委員

小学校区ごとにコミュニティがあり、月に1、2回自治会長同士が会う機会があったり、自治会長会という機会がある。自治会の課題や解決についての情報共有をしている。

### 岩崎会長

市は自治会と必ずしも上手く意見交換できていない現状というご意見であるが、コミュニティについてはいかがだろうか。

### 横谷委員

本日人権委員会で講座があり、多数の参加者がおられ、非常に関心が高いのだとわかった。一方で、コロナ下においては、コミュニティ単位で大きな規模の事業をするよりも、自治会単位で少し規模の小さいで事業をする方がやりやすいと意見が出て来ている。

テーマによっては、関心が高いものもあるので、小規模での実施を考えている。

### 岩崎会長

コミュニティでは活動の規模が大きすぎるのではないかというご意見であったが、その一方で自治会に関心が動いているとは考えられるのだろうか。

### 横谷委員

今回のオミクロン株への対応は高齢者をターゲットとし、高齢者の活動にブレーキをかけているように感じる。

### 岩崎会長

自治会など活動団体が高齢化する中で、コロナでブレーキがかからざるを得ないという状況であるが、「次世代の担い手の発掘」という観点では、「待ッティングカード」や「トリカワカード」を検討されているが、自治会に若い方が参加する、加入率をあげていくポイントとはどういったものがあるだろうか。

### 丸谷委員

私自身もそうだが若い世代は、自治会に自分が入って自治会をより良くする行動の範囲が見えにくいと思う。自分たちの世代が何かしないといけないと思うが、自治会に入ってどうしていけばいいのかがわからない。わからないが、若いことで期待を持たれるが、誰にどう助けを求めていいかもわからない。

また、「ひと・まちおこしセミナー」というタイトルもすごく壮大な名前だ。「まちおこし」という言葉は壮大だが、何か方向性が一緒の人が集まって、そこからコミュニティが広がって活動に繋がられるような、何かやってみたいけど、やり方がわからない人を暖かく柔らかく迎えられるような環境を整えていくことが大切だ。そういったことを自治会の会議などで感じることだ。

### 岩崎会長

「一緒の人」とは「関心」が一緒ということか。

### 丸谷委員

自身もこの会議に参加したのは、まちを良くしたいという思いや提案したこともあるが、そのテーマではないことや「まちおこし」とはどういうことだという議論になると、

若い人はわかりにくいと思う。

もっと小さな関心、カテゴリーで一緒の方が集まればいいなと感じている。

「ひと・まちおこしセミナー」というと壮大な印象を受けるので、今後自分は一生この活動で仕事していくんだという気持ちになってしまう人もいると思う。

#### 岩崎会長

「ひと。まちおこしセミナー」というのも決して壮大なことを想定しているのではないけれども、そういう印象を受けるとなると、一緒の人が集まる場合は具体的なテーマが沢山ある、選択肢が沢山ある方が良いということだろうか。

#### 丸谷委員

そういう選択肢が沢山ある中で、そこを窓口にもっと深いところに入っていけるということがいい。

#### 岩崎会長

例えばお祭りだとか清掃活動というものがあって、それが自治会活動であれば自治会に、コミュニティ活動であればコミュニティに繋がっていくのではないか。

#### 丸谷委員

何もわからない若い世代が期待を持たれて自治会に入っていって、「役を受けてくれ」といわれても、どうしても仕事で参加できないとわかっているので、「役は受けられない」と答えるしかない。

そうすると、「私が入っていても何か役に立てているのか」という方向に意識が行ってしまう。

#### 岩崎会長

こういった点は、活動方針にも大きく関わるポイントであった。

若い方をターゲットとしたときに、担い手の発掘・育成に関して何かご意見はあるだろうか。

#### 名畑委員

丸谷委員のお話は、PTAに加入するか、加入しないかの話に似ている。最近、PTAの加入は任意となった。私自身は、加入したいが定期的な仕事（役員）は受けられないので、一旦加入しないと考えた。しかし、PTA会費だけは払いたいと相談した結果、加入していない人から会費は徴収できないと断られた。その結果、定期的な仕事は受けられないが、スポット的な単発の協力はする条件で加入している。

何か協力してみたいという人を引き込む時に、今は1か0の世界でコミットが厳しい。何かあった時に連絡が取れるくらいの関係を作って、スポット委員のような役を作ってみるのがいいのではないか。そういう募集をかけるとそこからつながりが生まれる、今は1か0かになってしまっていて関係自体が作れていない。

### 岩崎会長

通りがかりで参加できるような、気軽な参加ができるようじゃないと、一度関わるとがっつり参加というのでは中々敬遠されてしまうのではないかという意見であった。

### 丸谷委員

「ひと・まちおこしセミナー」で作成された動画は今も見られるのだろうか。

### 事務局

期間限定で今は見られない可能性があるが、確認できていない。

### 丸谷委員

今は「動画」は関心が高く、スマホで情報を発信し、日記感覚で映像を取る方も多いので、動画制作関係のテーマは参加しやすいし、市が実施しているのであれば、高齢者や親子連れなどデジタルに慣れていない方など、自分一人で学ぶより安心して参加できる。

折角、こういったことをされているならもっと広げていければよいと思う。メディア関係は広げていき、継続していく価値は十分あるのではないかと思う。

### 岩崎会長

動画を切り口に気軽に参加できる活動や活動を紹介する動画作成なども大切だと思う。

### 藤本委員

以前「待ッティングカード」に関わらせていただいた際にも感じたことだが、テーマがはっきりとしないと活動に入りにくいとは永遠の課題だと思う。

具体的にテーマ設定すれば、興味関心を持ってくれる人は多いと思う。テーマを刻んで、具体性を持たせて市民に問いかけていくととてもいいと思う。

#### 岩崎会長

一貫しているのは、「まちおこし」というのはテーマが大きすぎるということ。テーマを刻んで行くと話が合う機会が増えていくということである。

#### 田中委員

昨日、市民活動センターで「つながりカフェ」というラウンドテーブルに参加した。このラウンドテーブルは、テーマがない。単に近況報告からどんどん話がつながっていく。カテゴリーを見つけにくい場合は、ラウンドテーブルなどでそういった人を見つけられる可能性がある。

新型コロナウイルス感染症の影響で生活スタイルが大きく変わる中で、一人暮らしの高齢の方は、こういった場がありがたいとの言葉があった。対面で話すことが難しい時代にそういった場が用意されていることの重要性を感じた。

実効性が伴わなくても単に話すことも大切であるし、感謝の言葉からも参加者の数ではないということを表している。

#### 岩崎会長

もう一度、面識社会を作り直すこと、ネットで話すよりも対面で話すことが大切で、コミュニティカフェが各地で盛況なのは、そういったことの表れだろう。ただ、こういったことは数量で諮ることが難しい。

さて、基本施策2については、どうだろうか。

#### 横谷委員

現在、コミュニティで一番関心を持っているのは、You Tubeである。中々準備が大変だが、数にとらわれないという考えは参考になった。例え数人であっても、そういう気持ちを持った人が集まって活動できる場が自治会だと思う。自由な発想でやっていけると思う。

。

### 岩崎会長

コミュニティで取り組まれる際は、一括交付金を活用されるのだろうか。

### 横谷委員

以前、文化祭の代わりに展示する作品を動画で紹介した。今後は、文化祭の時期にとらわれず、年間を通して皆に見てもらえるように動画をホームページで公開したいと考えている。

### 岩崎会長

こういったところから、コミュニティビジネスが芽生えてくればと思う。

### 丸谷委員

例えば、地域のお祭りや行事に学生が参加していることは多いと思う。そういった中で高校の放送部は動画を作りたいし、コンテストにも出たいという思いがあるので、そういった学生を巻き込んでいく、自治会と連携していくということが大切と感じている。

田中委員の話されるテーマを設けない話し合いの場も必要だと思う。

### 横谷委員

現在、明峰高校のダンス部には明峰フェスティバルに参加いただいている。また、放送部には放送を担当していただいている。テーマ、テーマに応じて声掛けをしている。

### 岩崎会長

高校には地域課題の解決に向けた「探求」という授業があり、どのように地域に関わっていくかが課題である。

しかし、先生がそう言った授業に慣れていないため、外部のコミュニティなどが支えるということが必要である。また、小中学校も含めて発達段階に応じて、高校生が中学生を、中学生が小学生を指導するという仕組みよいのではないかと感じている。それがPTA活動とリンクしてくると地域活動に繋がっていくのではないかと考えている。

### 田中委員

大学では、インターンシップの考え方が変わってきており、これまでのお客様感覚ではなく、PBL（Practice Base Learning）という地域の課題を発見し、自分でアクションを起こして、解決するという方法が求められてきている。

阪神間の自治会と連携協定を結んで、学生を自治会活動に参加させ、自治会の方と一緒に解決に向けて取り組んでいる。

色々な大学で始まりつつある取り組みのため、制度として活用できないかと考えている。

### 山中委員

PBLは興味があるお話だ。横谷委員のお話で学生との協力について、大学生であれば、就職活動にも活かせる経験にもなるので、希望する人も多いのではないかと考えている。

### 岩崎会長

地域貢献に取り組むのは人としての幅を広げることにもつながる。また、コロナで大学の授業が大幅にオンラインになったことで、地域に出掛ける時間を作ることが可能になっている。

川西市として、学生が地域で活動する際に、市民協働事業補助金が活用できるなどといった支援があっても良いのかもしれない。

### 大西委員

NPOを立ち上げるまでは、地域と無縁の生活であったが、NPOを立ち上げて以降は、地域と連携していこうと意識しているが、周りの同年代はそういった考えはゼロだ。

理由として、マイナスをいくら消していてもゼロにしかならず、プラスを作っていくしかない。負担を減らして入りやすくすることも大切だが、魅力的な中身になっていかないといけない。日本の構造として人口は減って行く中で、魅力的なまちにしていけないと生き残っていけない。

まちづくりに必ずその地域の人間が関わらなければならないかということそうではない。地域には関わりたくないという人もいれば、北海道の人が川西市に興味を持って寄付してくれる人もいます。

そういった結果、お金が集まって仕事としてやっていけるように人を増やしていく、根本を変えていく必要がある。お金がないと生きてはいけません。

### 岩崎会長

何かをやっていくのにお金が必要だということは基本の話だろう。そのお金に関連して、地域づくり一括交付金、市民協働事業補助金、コミュニティビジネスの促進という支援が上がっている。

活動をなさっている方からして、こういった取組みは将来的な事業の自立を促すものになっているのだろうか。

### 久保田委員

NPO法人として活動している中で、この市民協働事業補助金を活用して、これまで出来なかったことが可能になり、大変助かった。

コロナで対面活動が出来ない中で、アマビエ体操という健康体操を考え、YouTubeで配信した。市民活動センターにもサポートいただき、ステップアップできたと感じている。また、次はYouTubeでどんなことができるだろうかと思いの幅が広がった。

川西市に興味ある人に訴えかけるために、まちの魅力をYouTubeで動画配信してはどうか。大学などで川西市を出た人も出身地である川西市は就職先や生活の候補地として考えていると思う。

### 岩崎会長

どういうきっかけで、市民協働事業補助金を知られたのか。

### 久保田委員

活動拠点が市民活動センターだったため、市民活動センターで知った。

### 岩崎会長

こういった相談は多いのだろうか。

### 三井氏

市民活動の支援として、一番大切なものは相談だと考えている。ありとあらゆる持ち札を備えておき、ニーズに応じて提案させていただいている。中間支援として、色々な情報や経験を持ち、色々なカードを駆使して対応していくことが役割だと考えている。

### 岩崎委員

しかし、単に相談で終わるのではなく、伴走型になると結構大変ではないでしょうか。

### 三井氏

それこそが、市民活動センターの使命・特徴であり、スタッフそれぞれの持ち味を活かしながらコンシェルジュのような対応ができるように皆で日々研鑽を積んでいる。そのため、質的な評価を受けたいと感じている。

### 岩崎会長

質的な評価は確かに難しい。しかし、こういった補助金を活かした団体がどのような事業を行い、どういった影響を社会に与えたのかということまで見ていく事は大変である。しかし、何らかの形で質的な評価は入れていかないといけないと考える。

### 藤本委員

地域づくりアドバイザーの運用について、地域の方がこの人を派遣してもらいたいという仕組みが良いと思う。地域の方も良く知らない方にアドバイスを受けたいとは思わないだろう。オンラインを活用すれば、遠方の方でもお話は聞けるので、地域の方が見つけた人を派遣するという柔軟な運用が可能であれば、有効な支援制度と考える。

### 岩崎会長

より多様な方とオンラインを活用してつながることも可能であろう。そういった特性は上手く活かしていければと考える。

## 3 閉 会

### 岩崎会長

評価指標の数値的には、コロナの影響もあり地域の活動が活発な訳ではないが、このコロナ禍において、次期計画を考えていく上で有意義な議論ができた。

## 事務局

当初に予定させていただいていなかったが、次回の推進会議は来月3月に開催させていただきたい。

議題としては、基本方針3の検証と来年度行う予定の市民アンケートを予定している。

< 次回は、令和4年3月に開催することで、委員了承 >

(終了)